

# セルビアの L2 日本語教育における B1 に適した 単語の選択と使用方法について

マルコヴィッチ・リリャナ (Marković Ljiljana) (ベオグラード大学)  
トリチコヴィッチ・ディヴナ (Tričković Divna) (ベオグラード大学)  
ベルセヴィッチ・ウナ (Belušević Una) (ノヴィ・サド大学)  
divna.trickovic@gmail.com

## 【要約】

セルビア語の日本語教材作成時、B1 に適した語彙の選択が最も主要なテーマの一つとしてあがった。文化や感性の相違によって訳すことが難しい言葉が現れた場合、まず、言語間の対照分析を行う。それでもニュアンスが把握しにくい語彙の意味を学習者に近づけるべく、コーパスを授業に導入して試みることにした。セルビア語では基本的に同じ単語を用いる生活・人生の二つに焦点を当て研究を行った。今後、非母話者の日本語 B1 レベルに適した表現力を高めていくために教師が、そして学習者が出来ることをコーパス言語学導入の視点から考える。

## 1. はじめに

他の小国と同様、セルビアの日本語学習者は、日本語の教材や辞書<sup>1</sup>が母語になっていないため、必ずと言って良いほど、他国の言語を使用した教材を使って学習を進めて行くしかない<sup>2</sup>。セルビアの場合、その媒介言語のほとんどが英語だと言える。そのため、40 年前にベオグラード大学に日本語学科を設立したマルコヴィッチ氏の下で、国内の日本語学習者へ向けた「セルビア語の教材作成プロジェクト」が開始され、母語以外の言語でしか日本語が学べない、という問題を解決しようとする試みが行われた。これまで、初級の教科書 (Marković et al. (2015) 『漢字』、Marković & Tričković (2015) 『日本語いっぱい』) を作成し、出版にも成功しているが、B1 や B2、つまり中級の教材作成が今後の挑戦になるであろう。それにあたって、「適した語彙の選択」が特に主要なテーマとなっている (その主要さに関して Nation 2000 に参照)。

---

<sup>1</sup>辞書は一冊存在しているが、Jamasaki-Vukelić (2003) のセルビア語・日本語と日本語・セルビア語、それぞれが約 6 千語を含む。

<sup>2</sup>「日本語を学習するには、学習者の母語の特徴を踏まえて開発された母語で書かれた日本語学習辞書、すなわち、母語によるバイリンガル日本語学習辞書が役に立つ。特に中級以降になると、自力で本を読んだりものを書いたりする機会が多くなり、レベルが上がるにつれて受信と発信のどちらの目的も満たす日本語学習辞書がより強く求められるようになる。しかし、現状では、日本語学習者が多数を占める中国や韓国など少数の国を除き、初級者向け、あるいは旅行者向けの簡易な辞書しか手に入らないという状況である。」 (砂川 et al 2012 : 164)。

それぞれ世代の異なる著者が連携し、問題解決のために歩んできた道を紹介するために、まず「セルビアのL2日本語教育」の背景を取り上げたいと思う。次に、B1の定義とセルビアにおける日本語教育に関する問題点を解説する。それから、言語教育の応用としてコーパスを導入する試みに加え今度の課題を述べる。最後に結論で得た結果をまとめる。

## 2. セルビアにおけるL2日本語教育の背景

日本語学習者の数は年々増えつつあるが、ヨーロッパ全体の日本語学習者は世界に対して少数派のようだ (Bučar et al 2014)。ヨーロッパの中でも小国に値するセルビアのL2日本語教育と言えば、ほとんどがベオグラード大学およびベオグラード大学の関連機関を指している。ベオグラード大学の他に日本語が学べる場所は、言語専門高等学校や、その他いくつかの私立の言語学校である。昨年からは、セルビア国内の主要都市の小学校や高等学校でも選択科目としての日本語が導入された。また、ノヴィ・サド大学でも大学付属のコースとしての日本語教育が開始された。これらの教育機関で日本語を教えている教師は、著者の知る限りでは、皆ベオグラード大学の卒業生である。

ベオグラード大学の方針は、CEFRの基盤にもなっているDavid Little氏の学習者オートノミー (Learner Autonomy) を促進しようというものだ (ELP; Little 2007, 2009a, 2009b; Little, D. Marović, Lj., Nikolić, J. 2010, Marković, Lj. & Tričković, D. 2014等)。それに加え、大学本来の方針として教師は学生と常に連携し、学生の意見に耳を傾けながら彼らのニーズに答えるべく創意工夫していくことを目的としている。

## 3. 中級、すなわちB1の定義

日本語のB1レベルは、「自律した言語使用者」として捉えられているが、B1の定義は次の通りだ (吉島他 2004:25)。

*B1: 「仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。」*

しかし、成人のL2日本語学習者が自身の「経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べる」ための単語選択をどのようにして行えば良いかの説明がまだ不十分である。

## 4. 語彙の意味を追究するにあたっての対照言語学の役割—問題点の導入

ベオグラード大学には、日本語・セルビア語の言語間対照分析というコースがあり、その中で著者の一人がよく学習者に対して指摘をするのが、「文化の影響で、意味が似た語彙の中でもだいぶ違うニュアンスが存在する」と言うことだ。そのため、外国語の語彙の意味をそれぞれ正確に把握することが必要不可欠だ。2015年後期のコースで、「život/ジヴオット/名詞, živeti /ジヴェティ/動詞 (英語で life, live)」という語彙が特殊事例としてあげられた。学生には下記のことばを授業後に辞書で調べさせ、翻訳させた。「セルビア語では、これらのことばの意味はほとんど同じ」という答えがでた。その後、その

場で思い浮かんだ「život/ジヴオット/名詞, živetī /ジヴェティ/動詞」が含まれている文章をセルビア語で5つ書かせ、そのセルビア語の文章を日本語に訳すことを新たな宿題とした。受講者25人の内14人がこの宿題を提出し、合計75の文章を収集した。

このような研究はセルビアで初めて行ったが、様々な興味深い発見があった。収集した文章の中には、文化的な文脈が強すぎて訳すことが難しい例や、セルビア語の文が無ければ学習者が何を言おうとしたのか見当がつかない例もいくつかあった。または、日本語の文法的には間違っていないけれども、セルビア語の原文を見ると学習者が本当は別のことを言おうとしていることが分かる、というような例もあった(例1:セルビア語で「Život u Japanu je čudan.」という文章を「日本に住んでいるのはおかしいです。」と生徒が訳したが、「日本での生活はおかしいです。」のほうがセルビア語の感覚に近い;例2:セルビア語で「U životu nema pravila」と書いて、「生活の中にルールがありません」と訳したが、セルビア語訳には「人生にルールはありません」の方が適切だ。)。これらのニュアンスの違いは、バイリンガルであるベルセヴィッチが修正した。

—修正の事例—

2.

1. 生活のことじんせい私をびっくりしさせました。Život me je iznenadio.
2. 彼女は苦しい生命がありましたじんせいを送りました。Ona je imala mučan život.
3. この彼女は自分のこどもたちの人生のために生きています。Ona živi za život svoje dece.
4. 生活じんせいたくさんいい人にと合会いました。Upoznao sam dosta dobrih ljudi u životu.
5. 命人生はやくすごしました。Brzo prođe život.

Comment [CE3]:人生は早く過ぎます。

上記の例でも分かるように、学習者は「生活」と「人生」を入れ替えてしまいがちだ。そして、セルビア語の život に適する訳としては「生活」よりも「人生」の方が感覚的に近いだろう。分析したところ、セルビア語の život、živetī に適した語彙の割合は下記の表で分かる。その中でも6つの例文はセルビア特有の表現であり、意味論的には生活・人生などの領域から離れている(例えば、セルビア語の「Života ti」日本語の「まったくあなたは。」に近い意味を持つ)ため、この調査の対象外となった。「◇」マークのついているものは、例文に使用された単語が正しくないとは言えないが、別の単語の選択の方がよかったことを表す。または、セルビア語の「Ona živi za život svoje dece」は日本語で「彼女は自分の子供たちの人生のために生きています」というような例の場合には、どのように数えればいいのか判断しにくかったため、下の数字は目安として扱えばよい。

—セルビア語の život、živetī に適する日本語(75文章の分析結果)—

語彙	正しく使われた数	使われて間違えた例の数	使われていないが使うべきだった例の数
人生	19	1	14
生活	9+2◇	4	2
生きる	11	1	1
命	2	6	2
生命	2	4	1
寿命	4	2	1

住んでいる	1◇		1
一生			1

セルビア語の *život*、*živeti* は、日本語の「人生」、「生活」と動詞の「生きる」に最も似ている、ということが結果から伺える。また、学習者が「人生」ということばを充分使っていないことも分かる。その理由を探ってみた。

コースのプロジェクトの一つとして二人の学生、Vladimir Jovanović と Jovana Spasić が、これまでに使用してきた教材の中から「生活」と「人生」という単語が含まれている例文を探した。結果、「生活」と「人生」を含む例文が全部で 56 件あり、その中で「生活」を含む例文が 50 件なのに対し、「人生」はわずか 6 件しかないようであった。つまり、日本語の教科書における「生活」の使用率は「人生」と比べ大幅に高いようだ。これを更に追究するために、学生が使用している教科書と辞書を調べた。

## 5. 教科書と辞書でことばの定義を確認した結果

ベオグラード大学で日本語学科の必須科目である日本語の授業では、東京外国語大学留学生日本語教育センターの『初級日本語』とインターネット上の JPLANG が使用されている。それらは、最初の 2 年間、授業で使用され、三年目から、続きの『中級日本語』が使われる。選択科目としての日本語の講座では『みんなの日本語』が使われている<sup>3</sup>。それに加え、ベオグラード大学の学生が普段使用している辞書も調べた。その結果、「生活」はあっても、「人生」は見出し語としてほとんどないということが分かった。

- 『初級日本語』の教科書にある「せいかつ」は「life, living」とだけ定義されている。
- 『みんなの日本語 I・II』での唯一の定義は「せいかつ — 生活 — life」だ。ここでも「人生」は現れていない。

他の教科書でも同じ現象が見られる（例：名古屋大学日本語教育研究グループ（編）（2002）『A Course in Modern Japanese』 名古屋大学出版会）。

英語・日本語の辞書の場合は似たような傾向が見られるが、例えば、生徒たちが使用している、『Oxford Beginner's Japanese Dictionary』では「生活」の定義には life に (style)、「人生」に (persons' s) life が付け加えてある。そして、「life」で調べると、収集したデータと同じようなことばが頻度による似た順番で載せてある：「life *noun*: (human life in general) = じんせい・人生; (state of being alive) = いのち・命; (lifespan) = いっしょう・一生; (life expectancy) = じゅみょう・寿命; (everyday life) = せいかつ・生活」と表示される。<sup>4</sup>

それに対して、セルビア語の「*život*, *živeti*」に対する唯一のセルビア語・日本語の辞典の見出し語は次の通りだ。

<sup>3</sup>2015 年に初めてセルビア語の日本語教科書（『日本語いっぱい』）が出版され、今年から授業で教材として使われるようになるが、初級の前半のため「生活」の定義は初歩的なものしか載っていない。研究の時点ではまだ教科書が未完成だったため、この報告から外している。

<sup>4</sup>インターネット上の辞書と携帯電話のアプリも学習者の間では使われているようだが、そちらについては今回は詳しく調べていない。

いきる	生きる	икиру гл.јд. живети	生きた	икита жив(20 ページ)
いのち	命	иноћи им. живот		(23 ページ)
くらし	暮らし	кураши им. живот		(61 ページ)
じんせい	人生	ћинсее им. живот		(97 ページ)
せいかつ	生活	сеекацу им. живот	～する-суру гл.нп. живети	(102 ページ)
せいめい	生命	сеемее им. живот		(104 ページ)

すむ	住む	суму им.становати, живети, настанити се, настањивати се		(101 ページ)
くらす	暮らす	курасу гл.пт. живети		(61 ページ)

同じことばが反対のセルビア語・日本語の辞典にも載っている：動詞の場合は

「живети нсв.生きる икиру, 暮らす курасу,住む суму, 生活する сееацу-суру」；

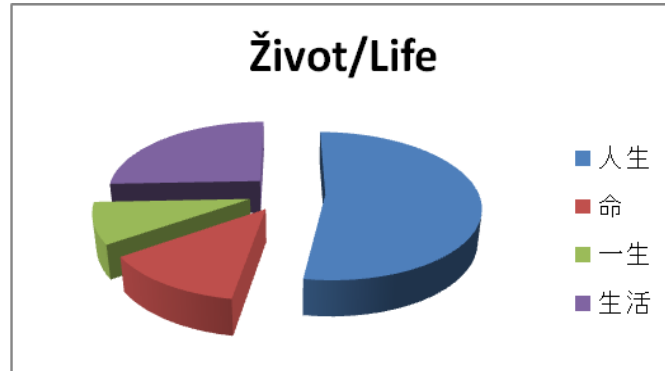
名詞の場合は

「живот м.命 иноћи, 生命 сеемее; 暮らし кураши, 生活 сеекацу; (човеков) 人生 ћинсее」

となる。

国際交流基金と日本国際教育協会が2004年に出版した『日本語能力試験出題基準[改訂版] (Japanese Language Proficiency Test: Test Content Specifications (Revised Edition), Created and Edited by The Japan Foundation and Association of International Education, Japan) によると、「生活」の場合、動詞と名詞の使い方が分けられており、動詞の「生活する」は3級で、名詞の「生活」は2級になるようだ。「命」、「人生」も2級で、「生きる」は3級、「住む」は4級にある。「住む」は先ほどのセルビア語・日本語の辞典でこう説明されている：stanovati, **zivet**i, nastaniti se, nastanjivati se、つまり、意味的には生活・人生のグループに含まれていると言えるだろう (Nation 2000、Joyce 2012 等)。けれども、セルビア語話者にとって、特にB1の定義を思い出すと、生活・人生・住む・暮らす・などの区別は2級の前までに掴んでおかなければならない。

要するに日本語の教科書では「人生」に比べ、「生活」が優先されているが、日本語・セルビア語の辞書にも英語の辞書にも「生活」のみに一致することばがなく、更に意味の広いことばが必要とされる。逆に言えば、「生活」は、その広い意味を持つことばの一定範囲しか覆わない、と言うことだ。そうすると、L2日本語学習者は自分の母語に適していることばを知っていると思いながらも、実際にはその一つの用途しか知らないことになる。それだけでなく、「life」とのみ定義されているため、知っていることばの制限すらも分からないだろう。以上のことを踏まえれば、収集した文章のような間違いが起こるのは当然だろう。



—セルビア語および英単語に対する日本語の意味領域のイメージ—

## 6. LEARN TO LEARN とコーパス言語学の導入

日本語だけ見れば上に述べた単語の位置づけは妥当かもしれないが、外国人の日本語学習者には分かりづらいだろう。この問題の対策としてコーパスを使用してみることにした。<sup>5</sup> インターネット上の無料で使えるコーパスの検索システムについて教わり、今回コーパスを使用し得た成果は次の通りだ。

まず、日本国語研究所と Lago 言語研究所が共同開発した“NinjalBCCWJ”というオンライン検索システムを使い、「生活」と「人生」の単語使用頻度を調べたところ、前者が36,195回なのに対し、後者は10,313回と、約3倍もの差があることが分かった。次に、両者の使用パターンの相違を探るため、パターン頻度順で検索を試みたが、どちらの単語も助詞と組み合わせて使うことが圧倒的に多く、どの助詞を取ってもやはり「生活」は「人生」の約3倍の頻度で使用されていた。例えば、「生活を」の頻度が5,817回なのに対し、「人生を」は2,193回であった。

そこで、「生活」と「人生」それぞれのパターン頻度順の二番目、そして三番目を比べてみたところ、やはり両者の使用方法に違いは存在する、ということが明らかになってきた。生活の二番目は「名詞＋生活」（例：天皇の日常生活 *Svakodnevni život cara*）であるのに対して、人生の二番目は「人生＋動詞」であった（例：人生を送る。 *Voditi život*）。また、生活の三番目は「生活＋名詞」（例：生活環境 *životna sredina*）であるのに対して人生の三番目は「人生＋の＋名詞」（例：それは、いわば人生の一部でした。 *Može se reći da je to bio deo života.*）であった。このように、コーパスを用いた言語学習では、単語の使用頻度や使用パターンだけでなく、実際に使用されている膨大な量の例文を見比べることができるため、微妙なニュアンスの違いが把握し易い。また、単語によってインターネットのイメージ検索と合わせて活用すれば視覚的情報も利用することができる。コーパスには、一般的な教科書にはない生きた例文の豊富さがあるため、語彙の選択に役立つという声が学習者から寄せられ、成果が検証された。

<sup>5</sup>そのため、ベオグラード大学で Irena Srdanović がコーパス言語学について特別コースを開催した。世界中で多くの研究者がこの分野に携わっており興味深い成果が現れているが、ここでは事例を優先することにし、先行文献では特には触れないで置く。参照として砂川有里子（2009、2012）、砂川有里子・李在鏞・高原真理（2014）、ベケシュ・アンドレイ（2014）、スルダノヴィッチ・イレーナ・総田はるみ（2014）、仁科喜久子（監修）鎌田美千子・曹紅荃・歌代 崇史・村岡貴子（編集）（2012）（その中でも特にスルダノヴィッチ・イレーナ（2012））等があげられる。

## 7. 結論

当然のことだが、日本語の非母語話者である L2 学習者にとっては、L1 が存在していることこそが付加価値になるだろう。言い換えれば、二つの文化の視点を同時に表現できることこそが違う言語を習う目的であろう。そこからまた、新しい発想もうまれるだろう。また、ほとんどの場合、そのような L2 日本語話者は日本語で「自律した言語使用者」になろうとする際に、すでに自分の母語では「仕事、学校、娯楽で普段出会うような身近な話題、および身近で個人的にも関心のある話題」について充分詳しい価値観が出来上がっているだろう。育ってきた文化の影響を受けた自分なりの「経験、出来事、夢、希望、野心」も既に持っている。「自律した言語使用者」になるために、自分の言いたい事を伝えらるのが根本的な考え方であり、そのためには学習者の母語とその文化を考慮したテキストが必要であろう。逆に、それが存在しないかぎり、自分の表現力と語彙が一致しないはずだ。

Little 氏の学習者オートノミーを促進する環境下で自律した言語使用者を育てる教師の役割は、学習者個々の能力を充実させる力を身につけさせるために常に彼らのニーズを聞き、取り入れていくと同時に学習方法自体を教えることになるだろう。つまりは「learn to learn」だ。そこでコーパスを用いることで、辞書だけを使用するよりも明確なことばの使い分けが可能になるはずだ。けれども、以上のことを踏まえても、ベオグラード大学の授業でのコーパスの使用方法に関してはまだまだ工夫が必要だと思っている。学習者は、語彙の区別を理解するための便利なツールだと言ったが、コーパスのありのままの文章が場合によってはとても分かりにくかった、という意見もあった。「人生」「生活」のようなことば、つまり文化の影響が強いことばの場合、似た語彙を取り出し、分かりやすく説明することは日本語教師のもう一つの課題になるだろう。そのために生の教材とのバランスを取りながら、コーパスを使用し、適している例文を上手く選択し、授業または教材の作成用に使うことが最善だと思う。そのためには、日本語のコーパスだけではなく、おそらく学習者の母語のコーパスも使用しなければならないだろう。両方を用いて、一番使用率が高い語彙を二言語間で比較する必要がある、そのためには学習者の声に耳を傾けることが必要不可欠だろう。

## 参考文献

- Bučar, Chikako Shigemori et al. (2014) The CEFR and Teaching Japanese as a Foreign Language. *Linguistica*, 54, 455-469  
(UDK 811.521'243(497.4):37.016(4))
- ELP (European Language Portfolio – for foreign language studies in higher education) Evropskijezički portfolio zafilološkstudijena fakultetima*. Serbia. October 2012 (Tempus, Reflex project).
- Joyce, Terry (2012) 「Some reflections on the relevance of word association data for vocabulary research」 『言語教育・コーパス・システム開発 日本語学習支援の構築』 凡人者, 139-156
- Little, D. (2007) Language Learners Autonomy: Some Fundamental Considerations Revisited. *Innovation in language learning and teaching* 1 (1), 14-28.
- Little, D. (2009a) *Developing and Implementing a Holistic Approach to Language Teaching and Learning at University*. A Seminar on Language Teaching. March 25th – 27th, The Faculty of Philology of the University of Belgrade.
- Little, D. (2009b) *The European Language Portfolio – Where Pedagogy and Assessment Meet*. 8th International Seminar on the European Language Portfolio, September 29th – October 1st, Graz. Document 4. Language Policy Division.

- Little, D., Marković, Lj. & Nikolic, J. (2010) Linkdesk: a software tool for establishing a relationship between learning outcomes and cefr proficiency levels. 4TH INTERNATIONAL TECHNOLOGY, EDUCATION AND DEVELOPMENT CONFERENCE (INTED 2010), 47-52.
- Marković, Lj. & Tričković, D. (2014) Collection of Student Articles as a Case-study for the Acquisition of Discourse: Competence and Written Production in the Field of Japanese Language and Culture. *The Proceedings of the 18th Japanese Language Symposium in Europe 28-30 August, 2014; Section 10: Japanese Language Education, Subsection of the 14th International Conference of EAJS, Ljubljana, Slovenia*. ヨーロッパ日本語教師会□ (Association of Japanese Language Teachers in Europe e.V. (AJE)), 201-208.
- Marković, Lj. & Tričković, D. (2015) *Korak po korak : udžbenički komplet za japanski jezik i pismo* 『日本語いっぱい』. Beograd: Filološki fakultet Univerziteta u Beogradu, Kokoro.
- Marković, Lj., Tričković, D., Erdeljan, M. & Marić, S. (2015) *KANĀI : udžbenik za japanski jezik i pismo* 『漢字』. Beograd: Filološki fakultet Univerziteta u Beogradu, Kokoro.
- Nation, I.S.P. (2000) *Learning Vocabulary in another Language*. Cambridge University Press.
- 『外国語教育Ⅱ外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』(2002). Council of Europe; Goethe Institute Japan.朝日出版社.
- スルダノヴィッチ・イレーナ (2012) 「語の共起関係とシラバス—コーパスに準拠した共起表作りの試み」『言語教育・コーパス・システム開発 日本語学習支援の構築』凡人者, 123-138
- スルダノヴィッチ・イレーナ・総田はるみ (2014) 「『観光日本語』上級レベルの語彙選定」*The Proceedings of the 18th Japanese Language Symposium in Europe 28-30 August, 2014, Section 10: Japanese Language Education, Subsection of the 14th International Conference of EAJS, Ljubljana, Slovenia*. ヨーロッパ日本語教師会□ (Association of Japanese Language Teachers in Europe e.V. (AJE)), 297-298.
- ベケシュ・アンドレイ (2014) 「日本語辞書におけるコーパスに基づいた括弧構造的構文情報の記述」*The Proceedings of the 18th Japanese Language Symposium in Europe 28-30 August, 2014, Section 10: Japanese Language Education, Subsection of the 14th International Conference of EAJS, Ljubljana, Slovenia*. ヨーロッパ日本語教師会□ (Association of Japanese Language Teachers in Europe e.V. (AJE)), 110-116.
- 吉島茂・大橋理恵 他 (訳・編) (2004) 『外国語教育Ⅱ、外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠(Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (3rd printing 2002; Cambridge University Press.))』 Council of Europe; Goethe-Institute Japan; 朝日出版社
- 国際交流基金・日本国際教育協会 (編) (2004) 『日本語能力試験出題基準[改訂版]』 (Japanese Language Proficiency Test: Test Content Specifications (Revised Edition))
- 砂川有利子 (2009) 「コーパスを活用した日本語教育研究—Research on Japanese Pedagogy Using a Corpus of Contemporary Japanese」『人工知能学会誌』24巻5号 (2009年9月)、656-665
- 砂川有里子 (2012) 「学習辞書編集支援データベース作成について —『学習辞書科研』『日本語教育連絡会議論文集Vol.24』*Papers presented at the 24th International Conference on Japanese Language Teaching* 2012年3月.日本語教育連絡会議事務局, 164-169.
- 砂川有里子・李□在鎬・高原真理 (2014) : 「日本語学習辞書支援のためのデータベース構築」*The Proceedings of the 18th Japanese Language Symposium in Europe 28-30 August, 2014, Section 10: Japanese Language Education, Subsection of the 14th International Conference of EAJS, Ljubljana, Slovenia*. ヨーロッパ日本語教師会□ (Association of Japanese Language Teachers in Europe e.V. (AJE)), 102-106.



仁科喜久子（監修）鎌田美千子・曹紅荃・歌代 崇史・村岡貴子（編集）(2012)『言語教育・コーパス・システム開発 日本語学習支援の構築』凡人者

### 教科書と辞書

田中よね et al (2001)『みんなの日本語初級2－初級II 翻訳・文法解説、英語版』スリーエーネットワーク

田中よね et al (2001)『みんなの日本語初級1－初級I 翻訳・文法解説、英語版』スリーエーネットワーク

田中よね et al (2001)『みんなの日本語初級1－初級I 本冊』スリーエーネットワーク

田中よね et al (2001)『みんなの日本語初級2－初級II 本冊』スリーエーネットワーク

東京外国語大学 留学生日本語教育センター(1994)『初級日本語 単語帳（英語版）』凡人者

東京外国語大学 留学生日本語教育センター(1999)『中級日本語 語彙・文型例文集』凡人者

東京外国語大学 留学生日本語教育センター(1999)『中級日本語』凡人者

東京外国語大学 留学生日本語教育センター(2010)『初級日本語 上・下』凡人者

名古屋大学日本語教育研究グループ（編）(2002)『A Course in Modern Japanese』、名古屋大学出版会

Jamaseki-Vukelić, Hiroši. (2003) *Japansko-srpski i srpsko-japanski rečnik*. Beograd: Zavod za udžbenike i nastavna sredstva.

*Oxford Beginner's Japanese Dictionary*. (2010) Oxford University Press.